

令和7年度 第1回阿賀野市男女共同参画プラン推進協議会 議事要旨

1 会議の概要

日 時：令和7年12月18日（木）13：25～15：15

場 所：阿賀野市役所 403 会議室

出席者：【委員】井上会長、石川副会長、小川委員、齋藤委員、帆苺委員、脇川委員
【市】事務局：企画財政課（西潟課長、佐々木係長、山崎主事、岩崎主事）

2 議事概要

- （1）会議公開の取り扱いについて
- （2）阿賀野市男女共同参画プランについて（進捗報告）
- （3）令和7年度女性財団サテライト講演会について
- （4）令和7年度女性財団共催地域セミナーについて
- （5）次期阿賀野市男女共同参画プランの策定について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員 ●：市））

- （1）会議公開の取り扱いについて

今年度における会議公開の取り扱いについて事務局から説明した。なお、説明内容について質問や意見等はなかった。

- （2）阿賀野市男女共同参画プランについて（進捗報告）

令和6年度に実施した男女共同参画に係る事業成果及び令和7年度の実施計画について事務局から報告した。なお、報告内容について質問や意見等はなかった。

- （3）令和7年度女性財団サテライト講演会について

- （4）令和7年度女性財団共催地域セミナーについて

令和7年度に実施した新潟県女性財団のサテライト講演会と女性財団共催の地域セミナーについて事務局から報告した。

○高尾さんの講演会には参加しなかったが、どうしても都合がつかず行けなかった。周知の仕方だが各町内の回覧板とかで回せないものか。数が多すぎるとは思うが。

●ざっくり1,900部くらい必要になる。

○回覧板には入っていなかった。配布数が増えるので難しいと思うが、市の広報誌を配布する際に一緒に配ることも含めて検討してほしい。

○市の広報誌でも周知をされていたと思うが、さらっとしか書かれていないように思う。

例えばページ下にある広告欄のようなところに大きく載せられれば効果がありそうだ。

- 案内をいただいたので、職場に女性が多いこともありチラシを張り出し回覧した。ただ、子育て世代は土日だと参加しづらいかもしれない。
 - 昨年度の会議でも同様の内容で議論した際に、子育て世代だと土日は出づらいので平日に開催してはどうかと提案した記憶がある。ただ、平日は皆さん仕事されている方が多いと思うので、難しいところである。毎年この話をしているかとは思いますが、なかなか根本的な解決には至っていない。
 - 参加していいのか遠慮されている方もいるかもしれない。もっと気さくに参加していただけるような仕組みづくりができればいいかもしれない。
 - チラシやポスターの設置は公共の施設でも各公民館や福社会館が主だと思う。そういったところはあまり若い人が利用しないので、図書館や体育館等の若い人の利用がより見込まれそうなところでの周知も検討してほしい。
- 周知の方法として、市の LINE でお知らせすることは有効だと思う。熊情報とかも配信されれば確認していた。若い方の市公式 LINE の登録推進と併せて取り組んでほしい。それこそ、お得な情報とかそういったものが沢山配信されているとか、その LINE 上からそういったイベントへの参加が申し込めるようだと、なお気軽に参加できると思う。
- 市からの LINE での周知もチラシやパンフレットの写真を載せるだけだと小さくて見づらいつと感じる人もいる。表示の仕方にも工夫をしていただけるとありがたい。
- アナログ媒体をデジタルに転換した際には、画面をみてしっかりと伝わる形になるよう、工夫したい。
- 若い世代は情報収集も LINE 等のデジタルツールが中心になっていて、それが通常になっている。もちろん年齢層によってデジタル媒体とアナログ媒体のどちらが使いやすい、見やすいのかは違うと思うが、そういったところも加味して検討してほしい。
- 今後はオンラインによる講演会とかもどんどん開催されていくと思う。雨でも嵐でも関係なく参加できるスタイルになると思うが、今回実施したサテライト講演会もそうだったのか。
- 講師に五ノ井さんを迎えたサテライト講演会はそうである。オンライン上で五ノ井さんと各サテライト会場を繋いで行ったが、自宅にオンライン環境がない方向けにサテライト会場を準備したものである。
- 移動しなくても貴重な講演に参加できる時代になってきている。これからもそういった動きは加速していくと思うが、高齢者やデジタル弱者にも配慮するように努めてほしい。

(5) 次期阿賀野市男女共同参画プランの策定について

事務局から、次期阿賀野市男女共同参画プランの計画案について説明を行った。

- 学校でも男女の区別は減ってきている。名簿も男女混合になってきているし、男女問わず敬称の「さん」付けになってきている。これは相手を尊重するという人権的な側面もある。学校生活でも特に多様性が顕著に表れているのがランドセルの色。今は男女関係なく好きな色のランドセルを選ぶようになってきている。また、教育課程でも、小学校の道徳の人権教育でジェンダー等について学ぶ機会はある。ただ、計画内の「重点目標Ⅰ－２多様な選択を可能にする教育・学習の充実」に記載のある意識調査「男だから女だからと言われた経験について」の結果で、女子中学生の４割が性別による振る舞い方を求められた経験があると回答していることには驚いた。世の中も学校教育も、男女の区別がないようにといった方向になっているなかで、なにが足りていないのか考えさせられる結果だった。どうしても、個人の性自認等の踏み込んだ内容になると学校での対応にも限界がある。そういった面では家庭や地域とも連携しながら、さらなる啓発活動が必要であると感じた。
- 教育の現場では、基本的に現代社会に合わせた教育が行われている。学校等におけるという記載があるように、学校のみならず、地域や家庭、社会が連携しながら、子どもたちが多感な時期に受ける平等や不平等について、一緒になって考えていく必要がある。
- 私たち世代の親は男だから女だからという考えを持っている人が多いように思う。どうしてもそういった考えのなかで育ってきた世代なので、家庭でもそのような発言をしてしまう。子どもの習い事でも、本人はやりたがっていても男の子だからやめなと言っている親はいるし、結局は親世代が意識することが大切だと思う。
- 計画内の「基本目標Ⅱ仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境づくり」とあるが、多くの企業が有給の取得がしやすい環境づくりを推進している。ただ、法改正等が行われていてもそれを知らない経営者もいるので、経営者への意識づけや啓発も重要になってくると考えている。
- 少子高齢化が進行するなか、地域においてもより一層高齢者の活躍が必要と考えている。ただ、自治会の会長や役員の職は男性がほとんどで、女性は遠慮して一步引いてしまうことが多いように思う。どうしても育った時代もあるのかもしれないが、女性が活躍するという意識が若い世代と比べて低いのかもしれない。
- そういった昔の風土のなかで育った世代の女性の意識を変えていく、地域のなかで何ができるのかというところは重要だと思う。この計画にもあるように、女性が活躍できるまちづくりを推進してほしい。

○阿賀野市は病気になった子供をみてくれるような保育施設はあるか。

●あがの市民病院の前にある子育て支援センターの2階で病児・病後児の受入を行っている。

また、勤め先が市外の場合でも、新潟市や新発田市といった隣の市町村と連携して、市の垣根を超えて受入をしてもらっている。

○どうしても用事があるような、その前日であったり当日の朝とかの対応は可能か。

●病児だけでなく、一時保育の制度も市内の各園で実施している。

○そういった制度を知らない人も一定数いるかもしれない。利用する当人のみならず、会社も把握しておいた方がいいように思う。

○そういった制度の認知度が向上すれば、もっと働きやすくなる。

○離乳食づくり体験には母親だけでなく祖母が参加するケースもある。家庭によっては祖母が子供の面倒を見ている場合もあるので、そういった方にもどんどん伝えていってほしい。

●子育て支援に関しては、お子さんがお生まれになった際の手続きの際にそういった制度をまとめた冊子を配布している。また、健診の都度お話をする機会があれば、そういったところでも伝えていきたい。

○慌てていると、とっさに思いつかないこともある。そういった時にはとりあえず市役所に連絡したらいいと、そういった環境づくりにも引き続き取り組んでほしい。

○計画内の「基本目標Ⅳ誰もが安心して暮らせるまちづくり」に、セクハラやDVについてのアンケート結果がある。そのなかに、相談しなかった理由についてまとめたものがあり、理由も様々だが、実際そういった困りごとの相談はなかった。どうしても相談することのハードルが高いこともあるし、こちらも踏み込んでまでは聞けない。広報や啓発活動のやり方を含めて、どうしたらいいのか暗中模索のなかで活動している。

○この会議でも話にあがることが多い生活困窮者への支援や対応について、それこそ生理用品の配布等も行っていたかと思うが、そういう方への支援はどうか。

●生活困窮者に関しては、それこそ預貯金も尽き生活が苦しい方へは生活保護を、その手前で困っていらっしゃる方、例えば病気で働けないであったり過去の借金で苦しいといった方は、社会福祉協議会へお繋ぎして相談にのっていただいている。また、生活困窮とまではいなくても、ひとり親で大変だということであれば、市の社会福祉課で相談に応じ、健康面の不安には、地区ごとに保健師がお話を伺う体制もある。困りごとがあれば遠慮なく市にご相談いただきたい。